

## C-2 指導の実際とその工夫

### 実践の内容（学校行事の取り組みについて）

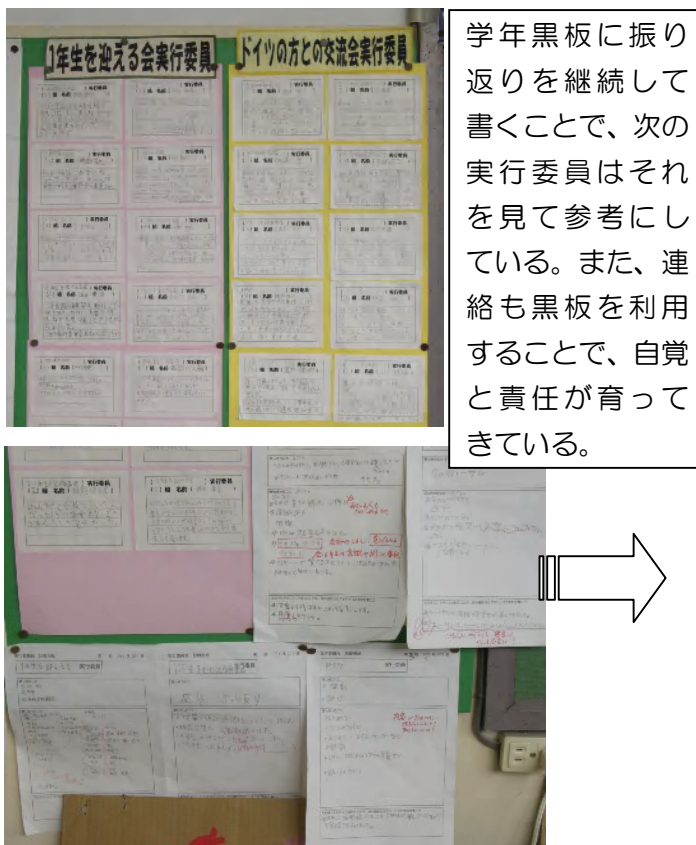
#### （1）指導方法の工夫改善について

##### ①実行委員会の活用

本校の特別活動の取り組みの特色として、実行委員形式があるのは前述の通りである。特に6年生は最高学年として主として活動する学校行事（1年生を迎える会・運動会など）が数多くある。それに加え、6年生に付随している学年行事（宿泊体験・連体・連音など）や総合的な学習の時間での「1年生と仲良くなろう」や「1年生と作って遊ぼう」「1年生とプールに入ろう」など、1年生と6年生が共に活動する中で、最高学年としての自覚や責任、下級生への思いやりある行動、接し方を学ぶ機会となる活動がある。年間を通しての実行委員会を明示し、6年生では一人一役となりすべての児童が実行委員会に関わることにした。

##### ②実行委員会の進め方やどんなことを大切にすることの明確にする

実行委員会の進め方やどんなことを大切にすることの明確にする必要があると考え、6年生で今年度は新たな試みを行った。まず学年黒板に「実行委員名・メンバー・活動時期・活動内容」を明記しつつ活動するの自覚を促した。実行委員の連絡コーナーも設け、「いつ・どこで・何をするか」を書き、それを見て子ども達が自主的に活動できるよう意識を促している。また、進め方やどんなことを話し合ったか、反省点は何かを共有するために、実行委員会で使った「実行委員会記録用紙」「実行委員の振り返り」を掲示している。実際に話し合いは一部の児童の中で行われるので、それを見て、自分達の実行委員会に役立っている。しかしながら実行委員会の中でも、話し合いの進め方は、まだまだである。学級活動同様、国語科での話し合いの単元での学習の充実、話し合い活動のマニュアルなども活用していくことも大切である。



学年黒板に振り返りを継続して書くことで、次の実行委員はそれを見て参考にしている。また、連絡も黒板を利用することで、自覚と責任が育ってきている。

実行委員会 記録用紙 第1回 (4)月(12)日

1年生を迎える会 実行委員

話し合うこと  
① スローガン  
② 内容  
③ 全校実行委員会

話し合ったこと  
スローガンのキーワード  
・楽しい  
・仲よし  
・全校のみんなが  
・協力  
・○○○年生  
・介  
・決まらぬ  
・おめでとう  
・アイトだ  
・ようこそ  
・1年生  
・アイトだ  
・6年間!!  
・決まり。

4年生  
たいらう  
話し合い  
歌  
初め言葉  
自己紹介  
きりぎりす  
目録  
私下、光作

先生からアドバイスされたことや、会の進め方のアドバイスがあれば書こう  
★ 次集まる時、あらかじめ確認する。(学年黒板に  
★ 見通しを立てる。(日時を書く)  
(何をやるか決めておく)

## (2) 評価の工夫改善について

### ①年間を通しての継続的な自己評価

年間を通して通知表や要録にある「特別活動の記録」の項目を分かりやすい言葉で置き換え、それぞれの項目について主な活動ごと、また委員会や学級における係活動、実行委員会もあるので、月ごとに振り返りを行っている。ここで大切にしたいのは、出来なかったことを見つけるのではなく、それぞれの活動を通して「ここが成長したな」「これが大切なことだとわかった」という自己の変容や学び・気づきを大切にし、次に生かしていくことである。自分を見つめ、次の活動に入る前に自分がどんな力がつきたいかを明確にすることにより、取り組み方や望む気持ちも変わると考える。児童の継続的な自己評価に加え、それを参考にしてその都度同じ様式で教師側も継続的に評価していくことにより、通知表や要録での評価にも参考になると考える。もちろん、紙だけの評価ではなく、その子その子一人一人の変容を見逃さず、記録していくことも大切ある。

### ②自己の変容を大切にしたい自己評価

特別活動の評価は、教科における知識・理解等の評価と違い、言動や行動、態度などの変容を評価していくことが多い。特に委員会活動やクラブ活動、学級活動とは違い、ひとつひとつの学校行事の中で、細かな評価基準を設定するのは難しい。そこで、年間を通して、学校行事、学年行事を経験するたびに、その過程の中で自分を見つめ、自分の成長を知るいい機会と捉え、自己評価を中心に自己の変容を大切にしたい評価を行っていくことにした。

## (3) 実践事例 「自分の成長を知ろう」～自己の変容を大切にしたい評価～

### ア. 実践のねらい

ここでは、学校行事として「運動会」と学年行事の「宿泊体験」を通しての自己の変容を大切にしたい、その中で評価を行うこととした。

運動会は学校行事の中でもっとも大きな行事であると考えている。子ども達の中でも同様で、当日までの練習、当日の活動を含め、1年間の学校生活においても最も心に残る行事の一つであり、自分を成長させるいい機会でもある。(昨年度の学級でも、「南中ソーラン」の入場の際に学年代表として太鼓を叩いたり、最前列で踊ったりしたことで自信をつけ、今までの授業でも発表しなかった子が、その後の授業では意欲的に発表したという事例もある。)特に6年生にとっては運営面からも運動会に参加することになるので、そこでの学びや成長は大きい。運動会では、「今までの自分」「練習中の自分」「運動会後の自分」とその練習過程の中で自分を見つめ、自己の変容に気づき、自分の成長を知るいい機会としたい。

### イ. 実践の内容

#### 活動1 「運動会における自分たちの役割を知ろう」

まず、運動会における6年生としての自分たちの役割や、運動会にかける思いを話し合い確認した。運動会では、委員会を母体として運動会の係活動を分担している。6年生は自分たちが競技に参加するだけでなく、それぞれが分担された仕事を、責任を持って行うことで運動会が成功すること、アイデアを出し合って、運動会を盛り上げていくことを確認した。子ども達からは、「6年生として係の仕事を責任感持って取り組みたい」「去年も係の仕事があったけど、6年生に頼っていたので今年は5年生をリードしたい」「応援団に入って、団の優勝を目指してみんなを盛り上げていきたい」などの役割についての思いや、「小学校最後の運動会なので悔いの残らない運動会にしたい」



# 運動会を通しての自分の成長

## 学級便り「STAR」より

- ・ 仕事を通して、たくさんの人の協力が必要だとわかった。人前でしゃべっても緊張しないで大きな声でしゃべれるようになった。
- ・ 若い力で真剣さがでてきた。学年でやる達成感や楽しさを学んだ。
- ・ 団長として、まとめること、大きな声で言える大変さを学んだ。すこしうまくなった。
- ・ 若い力の練習を通して、難しいことにも挑戦して練習すれば必ずいい演技になる。応援団が声をからすほど練習して努力していた。見習う人がたくさんいた。
- ・ 自分が思ったことをみんなの様子を見ずに反応や発表できるようになった。一人だけの活躍ではなく、みんなが頑張るから成功することを学んだ。
- ・ 係りの仕事で協力することを学んだ。これからは生かしたい。
- ・ 責任感があまりなかったが、責任感がついた。
- ・ 若い力が恥ずかしくなかったけど、やっているうちに恥ずかしくなくなった。
- ・ 係り活動の話し合いの時、前はあんまり意見を言えなかったけど、自分から「(ビデオ撮影を)やりたい」と言えたことが成長したと思う。時間ぎりぎりだったけど、運動会はそうじゃなかったから成長したと思う。
- ・ 責任感があまりなかったが、みんなと若い力をして責任感が少しついた。
- ・ アンカーとして「バトンを落としたらどうしよう」と思い、アンカーをやめようかと思った。最初からあきらめたらだめということが分かった。若い力でも。
- ・ 今まで、他の人に頼っていたけどチャレンジするようになった。リレーや棒倒しでも声を掛け合う、応援し合うことが大事だから、声を出して協力することを学んだ。
- ・ (若い力を通して) どんな小さなところもすごく注意しなきゃいけないことが分かった。
- ・ 人任せにしないことを気をつけようと思った。係りの仕事で責任感がすごく必要と分かった。
- ・ あきらめないことを学びました。何でもやりとげること。
- ・ 係りの仕事をして、責任感がちょっとついた。団長がすごく頑張っていた。運動会を優勝して頑張ることの大切さを知った。
- ・ 前はなんでも人任せだったけど、人に任せないようになった。若い力でシャキシャキしていたから、普段の生活でもシャキシャキしようと思った。
- ・ 若い力で他の人のやってるのを見て演技するのは、間違えるより悪いと思うから、自分を信じて他の人を見ずにしっかりやったので自分では良かった。
- ・ 仲の良い友達が多くなかったけど、仲の良い人が増えた！こういう時こそ「友達と仲良くなろう」と考えるようになった。人前で踊っても恥ずかしくなくなった。
- ・ 応援団で朝練習など、時間を守って練習できたし、責任感がついた。今までよりもっと、みんなの前でしゃべることが出来た。
- ・ リレー選手になって責任感が持てた。人任せにしないようになった。
- ・ 石川県で昔からある若い力だから、責任感を持つようになった。救護の仕事は間違えたらだめな仕事なので、責任感を感じた。
- ・ 絶対笑わないという決意をすこし破ってしまった。集中力が足りなかった。若い力や棒倒しに夢中になり、やりたいという気持ちが強くなった。
- ・ 覚えてないとき、司会でもうだめだと思ったけど、ちゃんと言ってすっきりした。やればできるということを学んだ。
- ・ 自分に課せられたことはしっかりやる大切さが改めてわかった。運動会が成功したのも、一人一人の仕事があってしっかりやったからできたということがわかった。